

ハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院 武見国際保健プログラム40周年記念シンポジウム

ー デジタルヘルス：地域医療にとっての機会と課題 ー

ハーバード大学T.H. Chan公衆衛生大学院武見国際保健プログラムは、保健サービスを充実・改善する世界的な必然性と限られた資源に起因する世界規模の問題を指摘し、新しい効果的な医療資源の開発、配分方法の改善を提唱した武見太郎元日本医師会長の構想にハーバード大学が着目し、1983年に武見元会長の名を冠して設立された学際的な研究プログラムです。これまでに日本人フェロー 68名を含む 61カ国 323名の武見フェローが輩出され、各フェローは国際保健の第一線で活躍するなど、その国際ネットワークは世界中に広がっています。本年、同プログラムは設立40周年を迎えることになり、記念シンポジウムを開催することとなりました。シンポジウムは、デジタルヘルスをテーマに最近の諸問題を検討し、将来への取り組みについて議論する場を提供したいと考えております。

皆様方の多数のご参加をお待ちしております。

日時： 2023年 11月 11日 (土) 13:00 ~ 17:30

場所： 日本医師会館大講堂 (文京区本駒込 2-28-16)

参加費： 無料

主催： 日本医師会、ハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院



次第

歓迎の辞 松本 吉郎 日本医師会長

基調講演 1

講演 1：デジタルヘルス：世界の潮流

後藤 あや 福島県立医科大学総合科学教育研究センター教授

講演 2：武見プログラムの明日への期待

マイケル・ライシュ ハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院名誉教授

基調講演 2

講演：医療 DX と日本医師会

長島 公之 日本医師会常任理事

第 1 部：複合危機の時代におけるデジタルヘルス

講演 1：社会的共通資本とデジタルヘルス

近藤 尚己 京都大学大学院医学研究科社会疫学分野主任教授

講演 2：健康格差とデジタルヘルス

ジューワン・オウ ソウル大学医学部国際保健政策管理学教授

コメント及びパネルディスカッション

第 2 部：デジタル時代の共生とジェンダー

講演 1：ポストコロナの共生社会

山本 太郎 長崎大学帯医学研究所国際保健学教授

講演 2：デジタル時代の共生とジェンダー

マリレン・ダンギラン サルブリス医療センター顧問

コメント及びパネルディスカッション

武見フェローからの提言

武見プログラムの果たす国際保健への貢献の再確認 ジェシー・バンブ 武見プログラム事務局長

武見フェローから日本医師会へのメッセージ

閉会の辞 神馬 征峰 東京大学名誉教授

お問い合わせ先：日本医師会国際課 担当：浜本 jmaintl@po.med.or.jp